

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
〒101 東京都千代田区
西神田2-8-7 (幅ビル)
電話 03(3262) 2426・2932
振替 (東京) 6-36337

公立学校だけの現象

文部省は八月十日、平成四年度学校基本調査の速報を発表した。それによると、児童生徒数は幼稚園から高等学校まで、すべての学校段階で減少を続けており、修学旅行と関係の深い学年別在学者数は高三をピークに小五まで減少傾向がみられ、小二以下は再び下降線をたどっている。

幼稚園から高校まで 児童生徒数は更に減少

文部省学校基本調査から

本年度の学年別児童生徒数は、前年度に比し、小学校は二十一万人減少、過去最低を更新、中学校は十五万一千人減となり、第二次ベビーブームのピークだった昭和六十一年より百六万九千人減少、高等学校も二十三万五千九百人減少した。児童生徒数の減少傾向を比較すると、最高は高校三年生を例とした場合、中学三年生は98、小学一年生は81となり、小学校五年生から三年生まで横ばいの年代はあるものの、

の今後の小学校入学者数は、年齢別人口から推測しても更に減少が続くことになり、次に、高校への進学率は95・9%で、過去最高の昨年より0・5ポイント上昇した。児童生徒数の減少傾向は、すべての都道府県に共通し、特に大都市圏でそれが著しいのは前年と同様である。また、児童生徒数の減少は公立学校に限定される現象である。私立校においてはむしろ漸増の傾向がみられ、特に中学一年生の数が多いのは、受験競争や学校経営などの関連が顕著に現れているといえる。更に、私立校の大都市圏中と女子の多いことも目立ち、逆に大都市圏の公立校における女子比率の低下に

平成4年度在学者数 (内はうち私立) (単位:千人)

学年	計	校種					
		1	2	3	4	5	6
小学校	8,947	1,410	1,465	1,502	1,512	1,511	1,547
中学校	5,037	1,623	1,681	1,733	—	—	—
高等学校	5,219	1,700	1,715	1,770	1	27	47

修学旅行の意義の再確認

編集委員 井桁 孝

近年修学旅行の多様化が進んでいる。スキー・サイクリング・農家での宿泊実習・地引網・民芸品の作成・牧場見学などの体験を始め、方法として班別自主行動・タスク・利用等が盛んに行われている。各学校においては修学旅行のねらい・内容・方面等の決定はどのようなプロセスを経て決められるのであろうか。修学旅行が学校行事としてどうから考えれば、最終的には校長の同意を得て決定されるのが普通である。しかし決定までの過程において、校長が積極的に立案に参画している学校は意外に少ないように思われる。もし校

「個を生かす」ということが強調される。第二に、集団としての秩序や規律の必要性を自覚し、それを守るという態度が求められる。第四には公衆道徳の涵養や他への思いやりの心が育つ。これらのことは人間としての生き方・在り方に直接的に迫るものであり、全人的な人間形成に果たす教育的役割は極めて大きい。修学旅行はこのようにして生徒の自己教育力を高め、生涯にわたる学習の基礎作り役立っているのである。このような観点に立ち、どうすれば生徒に集団生活を通過して望ましい体験を積み重ねることができるかを、具体的に校長を中心に生徒とともに考えることが必要である。「たかが修学旅行」ではなく「これぞ修学旅行」である。今年一度修学旅行の教育的意義を再確認することが、新しい修学旅行創造への第一歩となる。

会長に黒澤文雄氏 関東・東海・近畿三地区公立中 修学旅行連合委員会総会



あいさつする全修協山本理事長

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会(井桁孝会長・前習志野市立第一中学校校長)の平成四年度総会は、七月九日・十日の両日、京都市のホテルサンフラワール京都会館で開催され、事業計画の決定、本年度役員選出等を行った。



黒澤文雄 新会長

総会は十四時三十分、柳澤伸郎委員長(名古屋市長)の挨拶で始まり、井桁会長、顧問の山本種一全修協理事長のあいさつの後、前田寛参与(全修協理事・総局長)が、全修協創設の経緯と三地区修学旅行連合の経過、両者が一体となり実施してきた修学旅行の改善向上にかかわる活動の概要を説明した。次いで井桁会長が議長となつて議事に入り、平成三年度各地区修学旅行委員会の事業経過報告、本委員会の業務報告が行われ、続いて役員改選は、あらかじめ各地区並びに全修協から推薦された平成四年度役員候補者の名簿を事務局から発表し、全員一致これを承認して別掲のとおり新役員が決定した。

第7回全修協修学旅行セミナー

9月25日 名古屋で開催
財団法人全国修学旅行研究協会(山本種一理事長)は、これからの教育と今後の修学旅行の在り方について研究する「修学旅行セミナー」を、本年は次のおおりに開催する。
日時 平成四年九月二十五日(金) 十四時
会場 名古屋教育センター1(JR教育、名鉄神宮前下車)
主催 (財)全修協
後援 文部省ほか
協賛 関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会、近畿日本ツーリスト(株)
講演 「学校週五日制と修学旅行」 文部省教科調査官 渡部邦雄氏
記念講演 「修学旅行の現状と今後」 JR東海取締役社長須田寛氏
問合せは(財)全修協本部 06-6262-2662
又は名古屋事務所 052-2662-1971へ。

風紋

バルセロナ・オリンピック。日本選手の活躍が連日報道され国内が沸いた。バレーボール選手のユニフォームにはNIPPONとある。「ニホン」と「ニッポン」、両方使われるが、広辞苑では、慣例となっているものを除いて便宜上「ニホン」にしている。祇園祭の鉦が「ホコ」か「ポコ」かでもめている。山鉦連合会では、来年からそれぞれの鉦の呼称を「ホコ」に統一すると各鉦町に通知した。長月鉦(チギナタポコ)を始め、今まで「ポコ」で通じて来た鉦町では、話し合いもなしに猛反発。船鉦(フネポコ)などは、来年も以前とありにしよう。京都府宇治市にある木幡は、藤原氏一門の墓のあった所だが、JRの駅は「コハタ」と、京阪電車の駅と小学校は「コハタ」と名付けられている。また神社は「コハタ」、「許波多」の文字を用いる。山国日本に多いトンネルは日本語では隧道だが、正確には「スライド」と読む。一般的には「スライド」と呼ばれる。その方が正しいと言っている人が多いようだ。情緒は「ジョウチヨウ」ではなく、正しくは「ジョウシヨウ」。堪能は「ソノウ」ではなく「カンノウ」と読む。しかし、これらも広辞苑にのっている。西九州を旅したら、佐世保(サセボ)を「サセボ」と読んでも「ホボ」間違いないと、バスガイドが案内した。京都の修学院離宮は「シユガクイン」。近畿の修学(シユウガク)旅行は、大阪のニッポン橋から江戸ニッポン橋にかけて出発する。

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く思い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト 本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2
支店/国内250店(登録)/海外15店 運輸大臣登録一般旅行業第20号

＜講演要旨＞

学校週五日制のスタートについて

文部省初等中等教育局 教科調査官 成田 國英

学習指導要領が平成元年に改訂されたが、これからの教育においては二つの大きな課題が考えられる。一つは新しい学力観に基づく指導を展開すること、二つには一人一人の子供たちの持っている可能性を最大限に生かすことである。



＜基調講演要旨＞

修学旅行におけるサービスの向上

立教大学社会学部観光学科 教授 前田 勇

修学旅行におけるサービス向上について、サービス理論で問題を整理したい。サービス理論とは、サービスを構成している仕組み、特にサービスに対する評価の仕組みがどのようになっているかを段階的に説明できるようにした知識の体系である。

「あり・なし型の用法」又は「存在型の用法」と呼ぶ。この用い方で重要なことは、便益を受けた人がそれをどう評価したかは直接に関係がないことである。

最初から評価型を使うと、問題を論議していく上で重要な利用客から見ると当然あると思っていたサービスがない場合、(逆もある)どうなるか、(逆もある)どうなるか、問題と主観的な問題と混在しているというところである。

だが、本来のねらいは子供たちが家庭・地域社会での様々な経験、生活を通して子供たちの身に付くであろうこと、それをもっと必要と必要と能力として考えていく必要がある。このように考えたとき、学校が今までと同じように週六日制であったら、これからの生活に必要な資質や能力が子供たちの身に付かないのではないか。

子供たちのよさを生かすことについては、一から十まで全部先生方が、あるいは旅館の方々がセットするのはなく、一日の半日くらいは子供たちに計画を立てさせたり、もっとゆとりとした日程を組みながら、自然との触れ合い、人間関係を深めるというところにウェイトを置きながら、子供たちの豊かな発想を生かす必要がある。

座禅体験で "心、リフレッシュ!!" 清潔、安全、快適、安心のお宿

＜国際観光旅館＞ 比叡山 延暦寺会館

とびだせ自然へ 緑の箱根へ 箱根高原ホテル

きっと、思い出いっぱいの旅になる。修学旅行は、鈴鹿サーキットで体験学習。

ホテルK棟